

桜島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

本日（8月18日）、16時31分に昭和火口で爆発的噴火が発生しました。弾道を描いて飛散する大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300～1,800m付近）まで達し、多量の噴煙が火口縁上5,000mまで上がり北西に流れました。この噴火に伴い、小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東約1kmまで流下しました。

今のところ大規模な噴火が発生する兆候は認められませんが、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

平成24年3月21日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）の切替を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1、2）

昭和火口では、活発な噴火活動が続いています。

本日（18日）16時31分に爆発的噴火¹⁾が発生しました。この噴火により弾道を描いて飛散する大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300～1,800m付近）まで達し、多量の噴煙が火口縁上5,000mまで上がり北西に流れました。昭和火口で5,000mの噴煙を観測したのは2006年6月に昭和火口の活動が再開して以来初めてです。なお、南岳山頂火口では2000年10月7日の爆発的噴火で噴煙が火口縁上5,000mに達しています。

また、この噴火に伴い、小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東約1kmまで流下しました。昭和火口で火砕流が1kmに達したのは、2009年4月9日の爆発的噴火以来です。

・地殻変動の状況（図3）

有村観測坑道の水管傾斜計および伸縮計（大隅河川国道事務所設置）では、14日頃から山体がわずかに隆起・膨張する傾向が認められましたが、この噴火に伴い沈降・収縮しました。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学のデータを利用して作成しました。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。



図 1 桜島 鹿児島地方気象台（東郡元）から見た昭和火口の噴火の状況

左図：噴煙上昇中の状況（16 時 35 分頃）

右図：鹿児島市内方向へ噴煙が流れている状況（17 時 45 分頃）

多量の噴煙が 5,000m に達し、北西へ流れました（左図は 3,500m で上昇中の状況）。

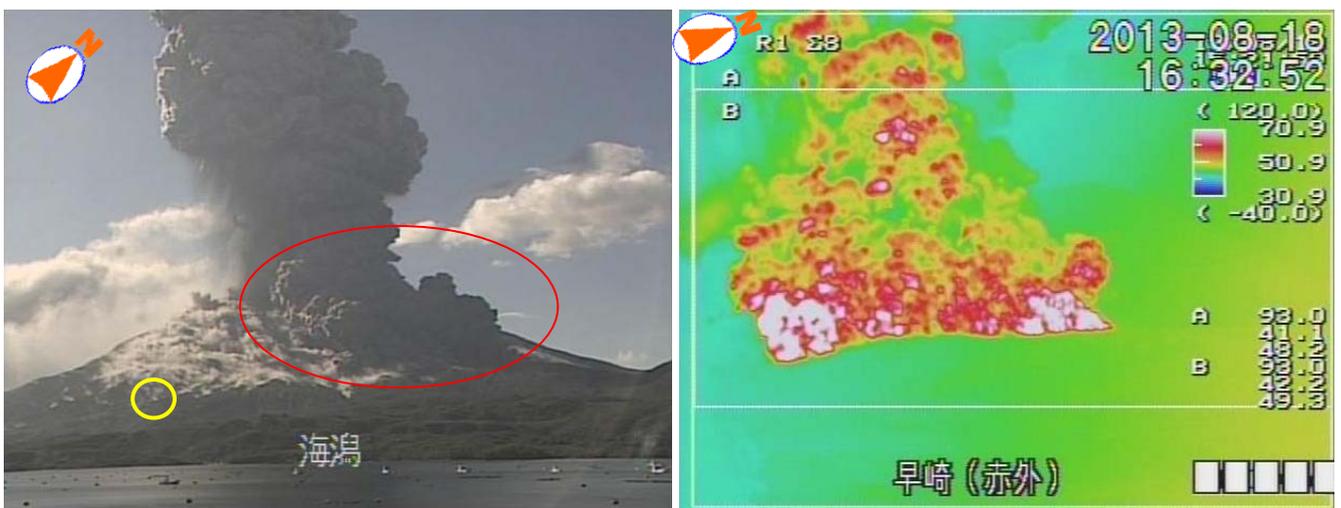


図 2 桜島 昭和火口の噴火による火砕流の発生および噴石飛散の状況

(大隅河川国道事務所設置のカメラによる)

左図：海淵からの可視画像（16 時 33 分）

右図：早崎からの赤外熱画像（16 時 32 分）

- ・火砕流は南東方向へ 1 km 流下しました（左図の赤枠）。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石は 3 合目まで達しました（左図の黄枠）。

有村観測坑道傾斜計・伸縮計(潮汐補正分値)
2013/08/10 00:00 - 2013/08/19 00:00

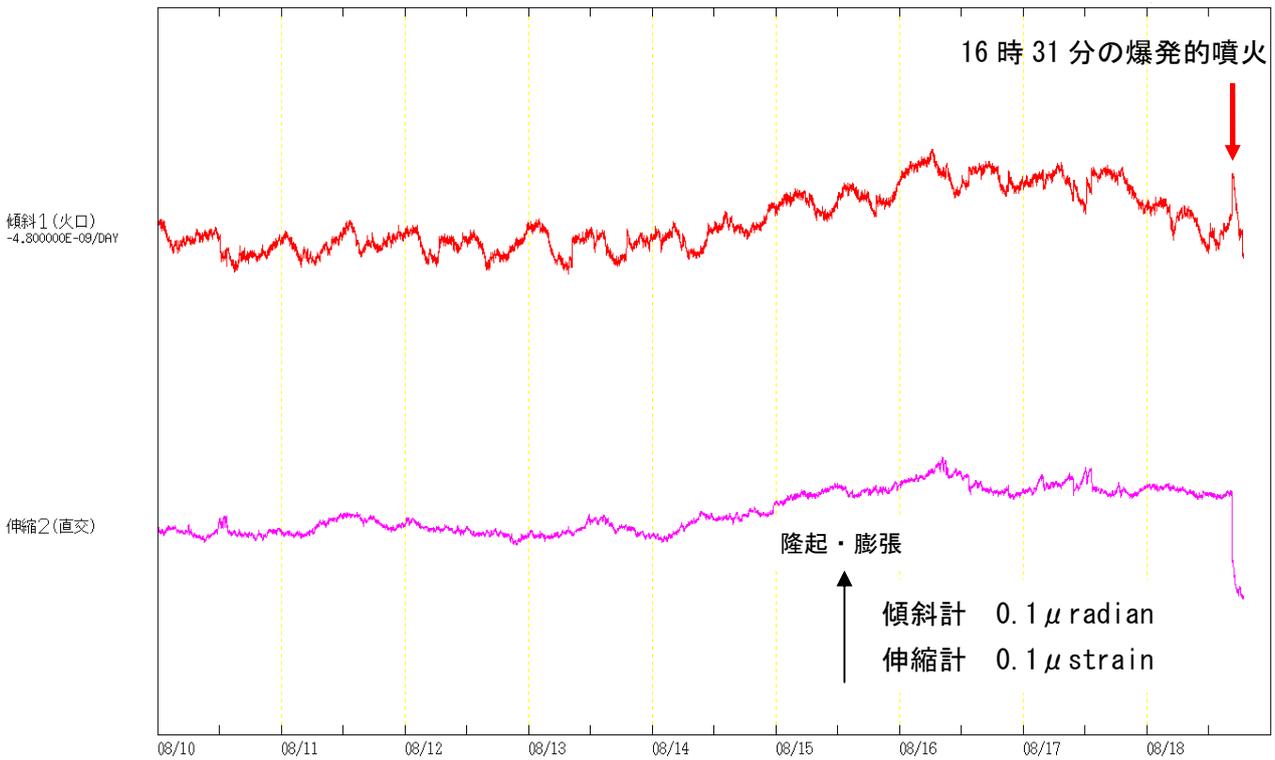


図3 桜島 地殻変動の状況 (2013年8月10~18日)

14日頃からわずかな山体の隆起・膨張する傾向が認められましたが本日(18日)16時31分の噴火により、沈降・収縮しました。

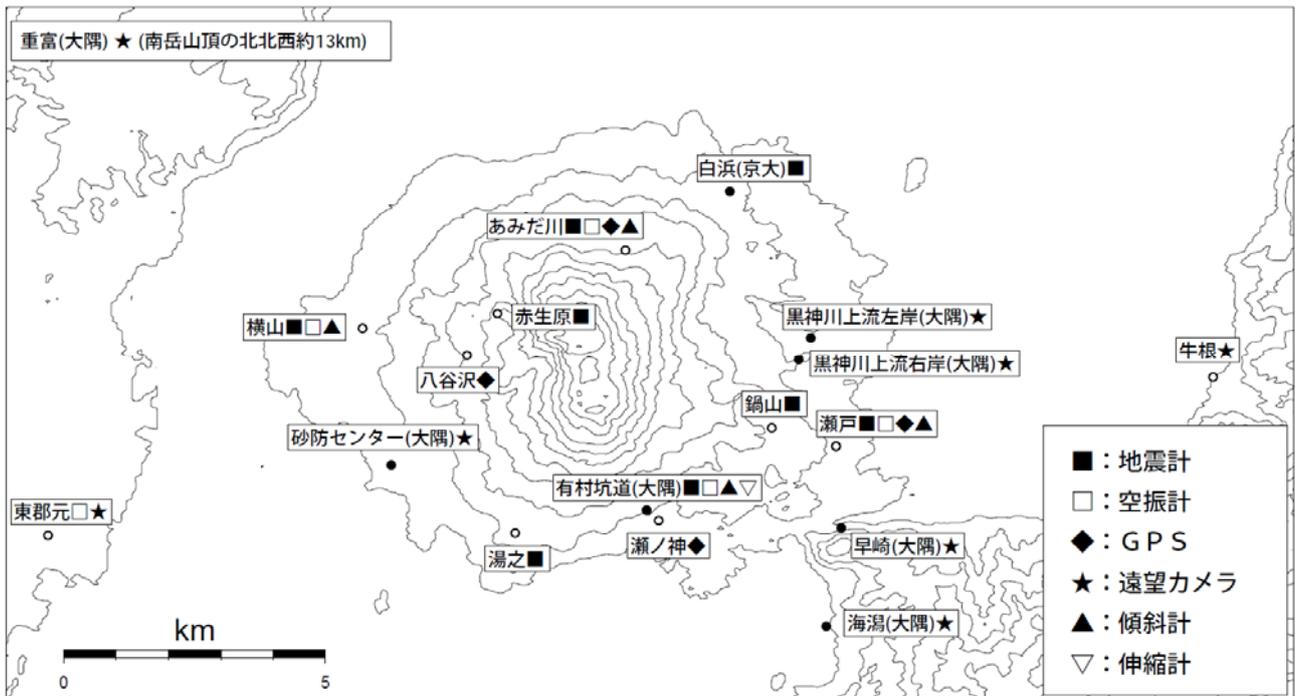


図4 桜島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(大隅)：大隅河川国道事務所設置、(京大)：京都大学防災研究所設置